

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2023年7月15日(土) 10:00~12:00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【学生】松井、東、井上、田中、飯田
【現職教員】藏前
【万葉文化館】井上、阪口、竹内
【大学教員】加藤、米田、大西 計12名

◇内 容 万葉文化館研究員からの話題提供、館内見学

1. 話題提供(企画・研究係長 井上さやか氏)

「采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く」

飛鳥宮と藤原宮は30分距離だが、心理的距離感。

寂しいイメージ。

説明しすぎない方がいい(マンガから入り、最後に原文)

興味を持つ前に説明しすぎると、勉強したくなる。

教え込みでは興味は湧かない。

万葉文化館をなぜ交通の便が良い奈良市に建てなかったのか。

それは万葉のゆかりは飛鳥だから。その場所で詠まれたのを学ぶのが大事。

飛鳥(飛ぶ鳥)は明日香という土地の枕詞。

用語の変遷を深ぼりして行くと興味が湧く。

知る機会が本当に大事である。

文法説明から入るのではなく、視覚として漫画を使いあとは背景や作者を知るとよい。



2. 館内見学(竹内研究員、阪口研究員)

①復原遺構「飛鳥池工房遺跡」

もともこの場所には江戸時代以来の農業用ため池があった。

飛鳥時代後期(7世紀後半)の大規模な工房跡

南地区: 工房で使われた原料、製品、工具などが多数出土。

素材は金属(金・銀・銅・鉄)、ガラス、玉類、粘土(瓦)、漆、木 など。

原料を溶かす炉跡の遺構

日本最古の鑄造貨幣「富本銭」がこの工房で生産。

北地区: 飛鳥寺に関連する木簡が多数出土。

「天皇」と書かれた木簡もあるが、その内容はよく分からない。



飛鳥池工房遺跡(南地区)

②万葉劇場「宮廷歌人 柿本人麻呂」(上映時間14分)

持統朝から文武朝の時代は、和歌の最盛期。

天皇の座を約束されながら思いがけず若く世を去った草壁皇子の死を悼み捧げた挽歌

東(ひむがし)の野に炎(かぎろひ)の立つ見えて かへり見すれば月傾(かたぶき)きぬ

「かぎろひ」…厳冬の早朝。太陽光線のスペクトルによって現れる現象 光の乱舞

③一般展示室

古代の市に迷い込んでもらうコンセプト

・「歌の広場」で歌垣の風習を知る

歌垣…歌の掛け合い 男女の恋歌のやり取り

市でさかんに行われていた

アニメーションで「風土記」「日本書紀」に載る、さらに古い時代の歌垣にまつわる話を紹介

「常陸国風土記」には筑波山での歌垣の記録

歌垣で妻問いの宝(求婚された証)を得られなければ、

一人前の男女とは言えない

歌垣では歌以外にも、お酒やごちそう、音楽や舞も楽しまれた

古代の市は、辻や大きな木を目印に開かれたと考えられている

現在の市場のように、食べ物や生活用品など、様々な品物が集まる物流の場

多くは物々交換によって品物の売買が行われていたが、和同開珎は市での売買でも利用された藤原京以降の都には必ず市が設けられるようになったが、古代の市は都に常設される以前から存在していた

万葉集には、海石榴市(つばいち)、軽市(かるのいち)などが詠まれている

紫は 灰指すものそ 海石榴市の 八十の衢(やそのちまた)に 逢へる児や誰

たらちねの 母が呼ぶ名を 申さめど 路行く人を 誰と知りてか

・古代発音の復元(タッチパネル)

古代の歌はどのような旋律や発音で歌われていたのか

6通りの歌い方で聞く

実際のメロディーは不明だが、今よりも高低があり、音の種類が多い言葉の発音も異なっていた

・万葉集の表記を知る(タッチパネル)

万葉集はすべて漢字で表記されている

意味のある漢字(例:山)、万葉仮名(例:夜麻)だけでなく、様々な工夫が見られる

万葉集の歌人が書いた文字が正倉院などに残されている

・様々な万葉集コーナー

奈良時代に書かれた原本は残っていない

いろいろな人が写した「写本」によって伝わり、江戸時代に印刷され(版本)、今に至る



「歌の広場」



「万葉集の表記を知ろう」